

小學修身鑑補 卷十四

館籍學會育教本日大
室 六 第
三 架
五 號
六 冊

383

不認定等
K1201
1
14

K120.1

1

14

吉田利行編輯

版權所有

小學修身鑑補

魁玉堂藏版

小學修身鑑補卷十四

吉田利行編

第一 忠義

一 天ノ坐ズル所地ノ養フ所
 人コリ貴キハ莫シ人ノ道ハ
 父子ノ親君臣ノ義ヨリ大ナ
 レハ莫シ（説苑）
 一 宋ノ宰相水欽宗ノ時侍郎
 一 為ル金人京師ヲ陷レ常ニ

一 君臣ノ義ハ天地

ノ大義ナリ父子ノ

親ハ天下ノ至恩ナ

本
書
の
目
次

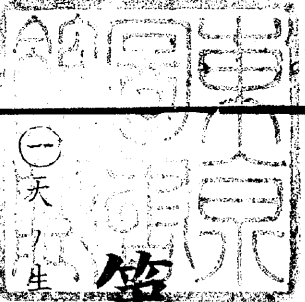
第一 忠義

第二 孝悌

小學修身鑑補卷十四

吉田利行編

第一 忠義



① 天ノ生ズル所地ノ養ケ所
 人ヨリ貴キハ莫シ人ノ道ハ
 父子ノ親君臣ノ義ヨリ大ナ
 ルハ莫シ 此苑

□ 宋ノ李若水欽宗ノ時侍郎
 ト爲ル金人京師ヲ陷レ常ニ

① 君臣ノ義ハ天地
 ノ大義ナリ父子ノ
 親ハ天下ノ至恩ナ

李若水ノ
 忠烈金ニ
 降ラサルヲ

小學修身鑑補 卷十四 吉田利行編

新論

通りテ營ニ至ラシメントス
 若水抱持シテ哭泣シ且金入
 ヲ試シテ狗ト爲ス金人之ヲ曳撃シ面ヲ傷ル若水氣結ン
 テ地ニ休ル罵テ口ヲ絶タズ其僕曰ク父母春秋高シ少シ
 ク屈シテ歸リ觀スルヲ冀ヘ若水叱シテ曰ク忠臣君ニ事
 ル死有テ二無シ何ゾ家ヲ顧ルヲ得ント食ハサルト旬日
 金ノ將殆没喝之ヲ召シテ降ヲ勸ム若水其罪ヲ數メ之ヲ
 罵ル金軍其唇ヲ擗テ破ル血ヲ喋テ罵ルト愈々切ナリ刀
 ヲ以テ頸ヲ裂キ舌ヲ斷ツニ至テ死ス年二十五金人曰ク
 南朝義ニ死スルノ臣唯李侍郎一人ノミ

①我皇國ノ民ニシテ神ヲ蔑ニシ國ヲ誣リ君ヲ棄シメ其
 祖先ヲ忘ルハ是ヲ人ニシテ人ニ非ズト謂フ 悟道辨

①万善アリト雖モ忠孝ノ道壽クハ君子ト爲ス可ラズ 初學訓

①君子ノ分天地ト共ニ易ハラズ臣民ノ祖先ハ往時歷朝
 ノ仁澤ニ浴セシ者ナリ今日ノ至尊ハ正サシク天祖ノ正
 繼ニシテ天祖ト同體ニマシ
 マス天地ト共ニ始リタル
 大義ナレバ天地ヲラン限リ
 ハ易ハルヲアル可ラズ是ヲ
 君臣義アリト云フ 聖訓

②神武天皇神聖英武ヲ以テ
 海内ヲ統壹シ億載ノ鴻基ヲ
 建テ給ヒシヨリ日本武尊勇

②大君ノ御威徳ニ
 由リテ我身安樂ニ
 此ノ世ニ住メバ四
 民トモニ其御恵ヲ

小學修身録 卷之十四 星文館

忘ル可ラズ

初學訓

武ヲ以テ東夷ヲ平盪シ武内大臣精兵ヲ提ビ三韓ヲ征討シ威稜海外ニ震ヒ外國ヨリ侵ス一能ハズ雄毅英武忠直ノ風ハ吾國ノ美俗ニテ萬古不磨ノ士氣ナレバ益々鼓舞振勵シテ武備ヲ精練シ邦家ヲ守ルベキナリ 良齋閑話

② 山ニ猛獸アレバ藜藿コレガ爲メニ起ラズ 玉倫書

② 皇國ノ朝廷ハ天照大御神ノ御皇統ニシテ即チ其大御神ノ神勅ニヨリテ定マラセ給ヘル所ナレバ萬々代ノ末ノ世ト雖モ日月ノ天ニマシマス限り天地ノ替ラザル限

③ 我君八千代ハ八千代よき礼石

リハイツクマデモ是ヲ大君主ト載キ奉リ畏ミ敬ヒ奉ラマシテハ天照大御神ノ大御心ニカナヒ難ク此大御神ノ御心ニ背キ奉リテハ一日片時モ立ツ一能ハザルナリ 玉匣

④ 凡王土ニ生レテ王臣トナル者忠ヲ盡シ命ヲ致スハ人臣ノ常道ナリ苟モ王事ニ盡スモノヲ以テ功名トス可ラズ 神皇正統記

④ 唐ノ魏果郡常山ノ大守タル片安祿山叛キ急ニ城ヲ攻ム果郡日夜防戦ス既ニシテ糧盡キ執ヘラル賊脅カシテ

の心をほと
なまてふおれ
むきまで
古今集

頼宗卿吉
ヲ新レテ
屈セサル

之ヲ降ヤントス景郷目ヲ瞋
 シ罵テ曰ク我レ國ノ爲ニ賊
 フ討ス汝ヲ斬ラザルヲ恨ム
 豈汝ノ叛ニ從ンヤ祿山怒リ
 テ天津橋柱ニ縛シ節解シテ
 其肉ヲ啜ハシム景郷罵テ口
 フ絶タズ賊鉤ヲ以テ其舌ヲ
 斷チテ曰ク復罵ルヤ否ヤト
 景郷言ヲ發スル能ハズシテ死ス

④ 普天ノ下王土ニ
 非ザルハ莫ク率土
 ノ濱王臣ニ非ザル
 ハ莫シ詩經

⑤ 君ニ事フル者ハ過ヲ諫メテ善ヲ賞シ可ヲ薦メテ否ヲ
 昏テ能ヲ獻ジテ賢ヲ進メ才ヲ擇ビテ之ヲ薦メ朝夕善敗
 ヲ誦シテ之ヲ納レ之ヲ道ビクニ文ヲ以テシ之ヲ行フニ

象山愛國
 死地ニ赴
 ク話

順ヲ以テシ之ヲ致スニ死ヲ以テス國語
 ⑤ 佐久間象山ハ松代ノ藩士ナリ博學多通旁ヲ洋書ニ熟
 シ又火技ヲ善クス天保ノ季年書ヲ其藩侯ニ上リ邊事ヲ
 籌策シ其名四方ニ播ス元治元年京師ニ事アリ召サレテ
 山階宮ノ所ニ至ル門入其行
 フ危ミ切ニ之ヲ諫止ス象山
 慨然トシテ曰ク二三子我ヲ
 愛スルカ抑國ヲ愛スルカ苟
 モ國ヲ愛セバ吾行ヲ止ル
 勿レ吾豈閑港ノ行ハレザル
 フ知ラザランヤ顧フニ國是
 未ク定マラズ今ノ時ニ當テ

⑤ 朝ニ立ツノ士ハ
 當ニ君ヲ愛スル
 父ヲ愛スルガ如ク
 國ヲ愛スル一家ヲ

小學修身録

卷之十四

四

學文録

國家ノ為メニ正議ヲ建ツル者吾ヲ舎テ誰ソヤ縱令命ヲ殞トシ軀ヲ損ルモ他日必吾説ニ從フ者アラント門人止ムルヲ能ハズ皆涙ヲ揮テ別ル途京師ノ木屋町ヲ過ギ入ル為ニ刺殺セラル

六士ノ朝ニ立ツハ正直忠厚ノ以テホトセン一ヲ要ス正直ナルハ則朝廷過失ナシ忠厚ナルハ則天下嗟怨ナシニツノ者偏ナル可ラズ

六備前侯光政嘗テ孝經諍臣ノ章ヲ讀シ老臣ニ謂テ曰ク卿等頃テク心ヲ此ニ用エベシ吾レ不善アラバ卿等宜シ

光政諫ヲ容レ諫叔直言スル事

愛スルガ如ク民ヲ愛スル一子ヲ愛スルガ如クスベシ

羅豫章

ク諫争スベシ卿等モ亦宜シク諫争ヲ容ルベシ中川謙叔進テ曰ク公ノ言此ニ及ブハ實ニ國家長久ノ兆ナリ然レ

氏公聰明人ニ過絶ス甚ク威嚴アリ而シテ痘痕面ニ滿ツ其赫怒ニ方リテハ擗猛近ツクベカラズ是ヲ以テ諫ヲ求ムルモ誰カ敢テ言ヲ盡サン宜シク顔色ヲ假シ以テ諫者ヲ來スベシ光政之ヲ嘉納ス

六人臣ノ君ニ於ケル一猶四支ノ元首ヲ載セ耳目ノ心ノ使タルガ如シ相須テテ後體ヲ成シ相得テ用ヲ成ス

六我身其位ニ居ラズンバ國政ノ是非ヲ評議ス可ラズ

大和俗訓

六人ノ臣下タル者ハ諫ムル一有テ諷ル一無ク頌メテ而シテ調フ一無ク諫メテ而シテ驕ル一ナシ礼記

七假令君ニ僻事アリテモ臣タル者ハ之ヲ隱シテ諷ルベカラズ大和俗訓

七其君ノ過ヲ知テ以テ告グスシテ私ニ蒙ニ語ルハ忠臣ニ非ザルナリ五倫書

七功ヲ立ツル者ハ賞セラレ政ヲ亂ダル者ハ誅セラル説郭

七魏ノ遼東公翟黑子武帝ニ寵アリ使ヲ并州ニ奉ジテ賄賂ヲ受ク事發覺セリ黑子之ヲ高允ニ謀ル允カ曰ク公ハ

七上ヲ毀り國政ヲ誹ルハ是太ナル矣

高允同僚ノ罪ヲ掩ヒ自白スル事

惟懼ノ寵臣ナリ罪アル臣實ヲ首セバ或ハ原サルニ近カラシ重子テ欺罔ヲナスベカラズ或曰ク若シ實ヲ首セ

忠不敬、至ナリ

家道訓

バ罪測ルベカラズ姑ク之ヲ諱ムニ如カバ黑子允ヲ怒テ曰ク君奈何シ人ヲ誘テ死地ニ就カシムルト入テ帝ニ見エ實ヲ以テ對ヘテ帝怒テ之ヲ殺セリ帝允ヲシテ太子ニ經ヲ授ケシム崔浩カ允等ト史ヲ修シテ直筆ヲ著ハシ石ニ刻シテ國惡ヲ暴揚スルニ當リテ太子允ニ謂テ曰ク入テ至尊ニ見エバ吾自ラ卿ヲ生路ニ導クニ至尊問フ一ヲバ但吾カ語ニ從ヘト太子帝ニ見エテ言フ高允ハ心ヲ小ニシ慎密ニシテ且ツ微賤ナリ其著述ヲ制スルハ皆

崔浩ニ由ル請フ允カ死ヲ赦セ帝允ヲ召シテ問テ曰ク國書ハ皆浩ガ爲ル所カ對ヘテ曰ク臣ト浩ト共ニ之ヲ爲セリ然レ臣浩ガ領スル所ノ事ハ多ク總裁スルノミ著述ニ至テハ臣浩ヨリ多シ帝怒テ曰ク允ガ罪浩ヨリ甚ダシ何ヲ以テ生カスヲ得ン太子懼レテ曰ク天威嚴重ニシテ允ハ小臣ナリ迷亂シテ對ル所ヲ失フノミ臣嚮ニ問ヘバ皆浩ガ爲ル所ト云ヘリ帝允ニ問フ信トニ東官ノ言フ所ノ如キカ允曰ク臣ガ罪當サニ誅セラレベシ敢テ虛妄セズ殿下臣ガ侍講日久シキヲ以テ臣ヲ哀レミテ其生ヲ乞ハント欲スルノミ殿下實ニ臣ニ問ハズ臣モ亦此ノ言ナ

八 祗ミテ君ノ法度ヲ承ケ孝弟ヲ其家

シ敢テ迷亂セズ帝顧ミテ太子ニ謂テ曰ク直ヒ哉此レ人情ノ難キ所而シテ允能ク之ヲ爲ス死ニ臨テ辭ヲ易ヘザルハ信ナリ臣ト爲リテ君ヲ欺カザルハ貞ナリ宜ク特ニ其罪ヲ除シテ以テ之ヲ旌ハスベシト遂ニ之ヲ赦ス

ニ行ヒ稼穡ニ服勤シテ以テ王賦ニ供スル此兆人ノ忠ナリ 忠經

八 天尊ク地卑ク乾坤定マレリ君臣ノ分已ニ天ノ定メニ屬ス各其職ヲ盡ス而已故ニ臣ノ君ニ於ケルハ當ニ畜養ノ思如何ヲ視テ其報ヲ厚薄セザルベキナリ 言志錄
九 臣ノ君ニ於ケル其忠誠ヲ竭クシ其才カヲ致ス用ヒラ

小學修身鈔補 卷之十四 星文館

ル、ト否トハ君ニ在ルノミ阿諛逢迎シテ以テ君ノ己ヲ厚クセンヲ求ム可カラズ五倫書

⑨ 臣タル者ノ道正ニ恩威ヲシテ一ニ上ニ出デ衆心皆君ニ遵ハシムベシ若シ入己ニ從フハ危疑ノ道ナリ同上

⑩ 身ニ長ナル所上知ラズト雖モ以テ若ニ悖ラズ身ノ短ナル所上知ラズト雖モ以テ賞ヲ取ラズ長短飾ラズ情ヲ以テ自ラ竭ス是ノ如クナルヲ直士ト謂フベシ荀子

⑪ 宋ノ司馬温公哲宗ノ朝ニ相ト爲ル太皇太后哲宗己ヲ

司馬温公
爾事ヲ執
リ命ヲ惜
マザル論

虚クシテ以テ聽ク公自ラ言

行ハレ計從ハル、ヲ見テ身

ヲ以テ國ニ殉セント欲ス庶

務ヲ親カラシテ晝夜ヲ舍テ

不賓客其體ノ羸レタルヲ見

テ諸葛亮ノ食少ナクシテ事

煩シキヲ舉ゲテ戒トス公曰ク死生ハ命ナリト之ヲ爲ス

テ英カム病革ナル并諱々トシテ語ル一夢中ノ如シ皆朝

廷天下ノ事ナリ卒スルニ及ンデ太皇太后之ヲ哭シテ慟

シ帝ト其喪ニ親臨ス京師ノ人爲メニ市ヲ罷メテ往キ弔

ス葬ルニ及デ送ル者私親ヲ哭スルガ如シ都中四方皆像

ヲ畫キテ以テ祀ル

⑨ 君ニ事フル者ハ
廉ニシテ貪ヲ言ハ
ズ勤メテ苦ヲ言ハ
ズ忠ニシテ己ノ功

ヲ言ハズ公ニシテ
己ノ能ヲ言ハズ

言行錄

第二 立志

① 人ハ頭ク各一ノ職業ヲ務メ農工商賈一切ノ技藝皆以テ志ヲ定ムベシ習走編

② 功ノ崇キハ惟志ナリ業ノ廣キハ惟勤ナリ書經

③ 世ノ因循苟且ニシテ俗ニ隨ヒ非ニ習ヒテ卒ニ汚下ニ歸スル者ハ凡テ志ノ立タザルヲ以テナリ傳習錄

④ 心堅確ナラズ志奮揚ナラ

① 夫學者百行未ダ立タズ萬善未ダ行ハレザル者ハ志ノ立タザルニ由ルナリ自娛集

陳烈靜坐
シテ放心
ヲ求ムル

ズカ勇猛ナラズシテ義ニ徒ツリ過ラ改メント欲スレバ千悔万悔スト雖モ竟ニ分毫ノ補ナキナリ畜德錄

③ 幼學ノ士ハ先ヅ人品ノ上下ヲ分別スルヲ要フ何者カ是下愚ノ爲ス所ノ事ゾト辨ヘ善ニ向ヒ惡ニ背キ彼ヲ去リ此ヲ取ル此幼學ノ當ニ先ジズベキ所ナリ小學

④ 陳烈記性ナキニ苦ム一日孟子ヲ讀ミ其放心ヲ求ムル

② 汝ハ汝自ラ一身ヲ立ル方法ヲ造リ出スベシ又汝ノ餓死スルトセザルトハ汝ノ自己愛憤スルト否トニ關スル

修身集 卷之十四 學文錄

ノ章ニ至テ曰ク我故心未ダ
收メズ如何ゾ書ヲ讀テ能ク
之ヲ記セント乃チ獨一室ニ
處リ靜坐スル一月餘コレヨ
リ書ヲ讀ミテ遺ルハナシ

蕭然錄

④人ハ速大ノ見識アリテ而
シテ方ニ速大ノ事業ヲ做シ
得ベシ 陳獻章

④古ヨリ聖賢ノ工夫ヲ做ス
ハ豈止ダ教行ノ書ニノミカ
ヲ著ケンヤ今ヨリ宇宙間ノ

事ハ皆吾事トシ第一等ヲ以
テ人ニ讓ル一無カルベシ

身世準繩

④見ル所期スル所ハ速且大
ナラザル可ラズ然レド之ヲ
行フハカヲ量リテ漸アルベ
シ 近思錄

⑤有志ノ士ハ縱ヒ日ニ新ナ
ル一能ハズ凡猶月ニ進ムベ
シ月ニ進ム一能ハズ凡猶歲
ニ増スベシ 擊枕書

⑤辛苦ノ車ハ卓絶ノ才ニ進

ナリメルボロン

③人事百般都ベテ

遜讓ヲ要ス但志ハ

則チ師ニ讓ラズシ

テ可ナリ又古人ニ

讓ラズシテ可ナリ

言志晚錄

④志ヲ立ツル一ハ

大ニシテ高クスベ

シ小ニシテ卑クケ

レバ小成ニ安ンジ

テ成就シ難シ天下

ムベキ道路ナリ絶妙ノ地位
ハ辛苦ノ人ノ獲ベキ恩賞ナ
リレイノルウ

⑥人志ヲ立ツル一固カラザ
レハ心毎ニ變ジテ終ニ業ヲ
成ス一能ハズ關ノ際

⑥心清カラザレバ則以テ道
ヲ見ル一ナシ志確ナラザレ
ハ則以テ功ヲ立ツル一ナシ
省心雜言

⑥漢ノ終軍ハ年十八歳ニシ
テ選バレテ博士弟子トナリ

終軍長安
漢書
關
ル

初ノヲ關ニ入りケルが關ノ
吏軍ニ襦ヲ與ヘテ曰ク選ル
片當ニ以テ合スベシト軍曰
ク大丈夫西ニ遊ハハ當ニ傳
車ニ乘テ還ルベシト襦ヲ棄
テ去ル長安ニ至リ謁者ニ
拜シ使シテ郡國ヲ行ケリ節
ヲ建テ、東關ヲ出ツルトキ
關ノ吏之ヲ知テ曰ク此前キ
ノ棄襦生ナリト
⑦人ハ英氣有テ方ニ肯テ進
取スル一ヲ得勇猛奮發ノ後

第一等ノ人ト爲ラ
ント平生志スベシ

大和俗訓

⑤他人ヨリ一倍ノ
光陰ヲ用ヒ一倍ノ
勞苦ヲナセバ必他

人成セル事業ヲ

成シ得ベシホツク
ストン

⑥學者道ニ志アラ

バ須ク鉄心石腸ナ

ラン一ヲ要スベシ

畜德録

須ク只常久ノ工夫ヲ尋テ得
テ間斷セシメザルベシ方ニ
能ク進ム所アラン 居業録

⑧智見アリテ勤敏ナル人ハ
進ンテ難事ト戰フエ其胆
勇ニ資リテ之ヲ征服セリ然
ルニ暗愚ニシテ怠惰ナル人

ハ勞苦危険ノ光景ヲ見テ震
慄退縮スルエ其恐怖ニ因
テ不能ノ事ヲ造リ出スナリ

⑧學者ノ工夫ハ惟大志ヲ立

ツルヲ最急務トス能ク大志
ヲ立ツレバ則心ニ主トスル
所アリテ一切ノ慾心慾事モ
來リテ侵擾セズ 人生必讀書

⑨志ナル者ハ心ノ向フ所ナ
リ心ノ正面全ク彼ノ處ニ向
ヒテ往クト謂フガ如シ道ニ
志セバ是ノ心全ク道ニ向ヒ
學ニ志セバ是ノ心全ク學ニ
向ヒ一直ニ求メ進ミテ必其
目指ス物事ヲ得ンテ要ス
便チ是志ナリ若シ中間ニ或

⑦彼モ丈夫ナリ我

モ丈夫ナリ吾何ゾ

彼ヲ畏レンヤ 孟子

⑧志アルノ士ハ利

及ノ如シ百邪辟易

ス志ナキノ人ハ鈍

刀ノ如シ童蒙モ侮

翫ス 言志錄

⑨古人ノ志ニ於ケ

ルヤ皆之ヲ一旦ニ

立テ終身守ル精

神ヲ竭シテ遂ゲ達

ハ作シ或ハ輟メ或ハ又退轉
スルノ意アラバ便ナ之ヲ志
ト謂フヲ得ズ 善徳録

セントス故ニ為ス
所必成就ス 鄧定宇

第三 義理

① 凡義トハ為スベキ事ヲ為
シテ我身ノ利ノ為メニスル
私ナキヲ云フサレハ義理ニ
適ヘバ人喜ビ從ヒ事整ヒ行
ハル、故利求メズシテ自ラ
來ル自ラ來ル利ハ義ニ害ナ

① 凡事ヲ為スニハ
其義如何ヲ謀ル可
シ事義ニ合ヘバ大

貧者棄兒
ヲ教育シ
テ義ヲ守
ル証

シ利ヲ求ムルハ義ニ害アリ
義ト利トヲ分ツテ第一ニ務
ムベキ心術ナリ 天和俗訓
① 日雇ヲ稼ギ世ヲ渡ル一貧
者アリ其女ノ容貌甚タ美麗
ナリケレバ或ル親友之ヲ見
テ令娘ノ容色ハ甚タ艶カナ
リ賣テ娼トナサバ數百金ヲ
得テ安樂ニ歳ヲ奉ヘナント謂
フヲ其人肯ハズ此子ハ棄
子ナリシヲ予之ヲ拾ヒ育テタルナリト答フ親友曰ク然
テバ猶更ノ事ナリ速ニ之ヲ為セ實子ヲダニモ賣ル者アリ
况ンヤ棄子ヲヤト其人イヨミ頭ヲ掉リテ曰ク予初メ

ナリト雖モ懼レズ
義ニ合ハザレバ小
ナリト雖モ當ニ慎
ムベシ 薛文清

人傳身録 卷之十四

此女ヲ拾ヒシハ心ニ之ヲ憐ミテナリ食シキ時ニ賣ラン
為メニハ非ラズ予ハ窮スト雖モ豈初志ニ負カンヤト遂
ニ利欲ニ迷ハザリシトゾ

一 君臣ノ大分ヲ明ニシ天下ノ大義ヲ識リ死ヲ守テ變ゼ
ザル斯レ之ヲ義ト謂フベシ 性理書

一 凡テ汝ノ外貌ニ顯ハサント欲スルモノハ常ニ必中心
ノ誠ヨリ出ヅルヲ務ムベシ 立志編

二 芝蘭ハ深林ニ生シ人ナキヲ以テ芳ナラザルハ有ラズ
君子徳ヲ修メ道ヲ立ツル窮

困ノ為ニ節ヲ改メス 家語
二 子路曰ク士ニシテ勤若ス
ル一能ハズ死亡ヲ輕ンズル

二 義ハ事ノ主ナリ
義ヲ以テ事ヲ行ヘ

一 能ハズ貧窮ニ安ンズル一
能ハズシテ我義ヲ行フト曰
フ臣我ハ信セサルナリ 韓詩外傳

バ其事正シ義ナリ
シテ事ヲ行ヘバ其
事皆邪ナリ 五常訓

二 事ニ處スルニ二法アリ知
以テ可否ヲ別ク義以テ取捨
ヲ決スレバ斯ニ過擧ナシ 韓文書

三 明ノ黄韜某府ノ令タリ其府ノ南ニ貢獻ノ物品ヲ蓄フ
ル所アリ其周圍ニ柵ヲ結ヒ其吏ニ非ラズシテ柵内ニ入
ルヲ禁ズ一日韜ガ子酒ニ乘ジテ柵内ニ入ル韜之ヲ聞キ
テ大ニ怒リ之ヲ罰セント欲ス其屬吏等切ニ之ヲ救解ス
韜曰ク吾此府ノ令タリ苟モ私情ニ徇ヒ以テ公法ヲ枉ゲ

黄韜私情
ニ拘ハラ
ニ法ヲ公
ニスル話

卷之十四 十四 星 文 館

バ何ヲ以テカ民ヲ治メント之ヲ罰スル法ノ如クセリト云フ

貧民病人
ヲ護シ已
ガ家財ヲ
焼ク話

三米國ノ某村ニ火ヲ失セシトキ一人ノ貧民火ヲ撲滅セ
ントシテ四方ニ奔走スト雖モ其効ナクシテ火勢益々盛
ンナリ時ニ一人馳セ來リ之ニ告ゲテ曰ク汝ガ家將ニ燒
夫セントス早ク家財ヲ出スベシト貧人曰ク余ニ於テハ
家財ヨリ尊キモノアリ即チ隣家ノ老人病ニ罹リテ進退
起居意ノ如クナラズ其困迫想フベシト直チニ鄰家ニ馳
セ入り病人ヲ救ヒ出シテ之
ヲ安全ナラシメ然ル後家ニ
到レバ其家既ニ灰燼トナレ
リ然レモ敢テ愛惜ノ色ヲ爲

三 君子ハ義理ヲ貴
ビテ天命ヲ知ル故

サッリシト云フ

三富ト貴キトハ是人ノ欲ス
ル所ナリ其道ヲ以テセズシ
テ之ヲ得レバ處ラザルナリ
貧ト賤トハ是人ノ惡ム所ナ
リ其道ヲ以テ之ヲ得レバ去
ラザルナリ 論語

ニ義ニ背ケルハ
大ナル利ヲ得ルト
雖モ行ハズ害アリ
ト雖モ避ケズ 同上

三財ニ臨ミテハ苟モ得ル
ナカレ難ニ臨ミテハ苟モ免ル、
勿レ 禮記

三衆人ハ形ヲ毀ルヲ以テ耻トズ君子ハ義ヲ毀ルヲ以テ
辱トス 說苑

三明ノ儲生ノ妻范氏ハ賢ニシテ且孝ナリ夫妻相敬スル

范氏節ヲ守リ髮ヲ斷ス事

一賓ノ如シ嫁シテ二年ニ夫死シ家極メテ貧シ孤子アリ方ニ一歳又姑アリテ年老イタリ范氏日夜紡織ヲ勤メテ姑ヲ孝養シ孤子ヲ撫育セリ里ニ擊人某アリ家大ニ富ミ其妻死シケレバ范氏ノ姿色ヲ慕ヒ媒ニ託シテ千金ヲ以テ之ヲ娶ラント欲ス然レモ范氏堅ク節ヲ守リ肯ハズシテ曰ク上ニハ老姑アリ下ニハ遺子アリ我在ラザレバ誰カ代テ之ヲ養フヤ況ンヤ婦人ノ義ハ一ニ從テ終ルモノナリ若シ富貴ヲ貪リテ節ヲ失ハバ何ノ面目アリテ人ニ見エンヤト某聞テ怒リ強ヒテ之ヲ娶ラントス范氏即チ髮ヲ剪リ容ヲ毀チ死ヲ以テ自ラ誓フ某尋テ死シケレバ范氏ハ遂ニ貞清ヲ全クシテ姑ノ天年ヲ養ヒ孤子ヲ撫育シ終ニ貴顯ノ人ト成ラシメタリ

四 學者須ク常ニ志士ハ溝壑ニ在ルヲ忘レザルヲ以テ念トスベシ 朱子

四 危キニ臨ミ義ニ當テ若シ恐怖シテ苟モ免レバ平日小廉曲謹アリト雖モ觀ルニ足ラザルノミ蓋大節ニ臨ミテ奪フ可ラザル君子人ト為スベキナリ 慎思錄

四 千八百三十八年九月ニアヲルロ一シヤト号スル瀛船海ニテ颶風ニ出逢シガ船

グレイムズ
難船ヲ救
ノ話

四 危キニ臨ミテ懼レズ義ニ當テ其身ヲ愛セズ是君子變ニ處ルノ道ナリ此時ニ於テ能ク勇猛果敢ニシテ奮發ス

ベシ 慎思録

具疎漏ニシテ備ハラザリケ
レバ遂ニ岩礁ニ中リテ壞レ
タリ翌朝燈臺守タルリング
ルヲ見テ悲哀ニ堪ズ直ニ小舟ヲ浮ベテ救ハント擬シタ
レ氏風濤奔騰シケレバ一人ノ力ニ及バズ乃チ女「グレー
ス」二十歳ナルニ擔ヲ操ラシメ彼ノ船ニ達シ未ダ死ニ
及バザルモノ九人ヲ救ヒ飯レリ是時「グレー」スナリシバ
此九人ノモノモ争デカ免ル、ヲ得ンヤ吾身ヲ危クシテ
人ヲ濟ヘルハ眞ノ勇者ト稱スベシ此善行世人相傳語シ
画工其地ニ至リ彼女ノ難ヲ救ヒタル景况ヲ寫シテ世ニ
公布セリ英國ノ高官ナル人等モ亦皆書ヲ贈リテ贊美セ
リ

⑤君子ノ道節義ヲ守ルヲ重
シトス萬ノ事イミジク才能
アリテ美々シキ人モ節義ヲ
失ヒテ君ニ背キ難ヲ遁レ或
ハ死ヌベキ時ニ死ナザレバ
一生ノ名ヲ穢スノミナラズ
後代マデモ長ク惡名ヲ流ス
大和格訓

⑤松平信綱ハ徳川氏守成ノ
良臣ナリ初メ家光公ノ世子
タリシハ信綱阿部忠秋等ト
其左右ニ侍リシガ世子偶々

⑤士ノ人タルヤ理
ニ當テハ其難ヲ避
ケズ患ニ臨ミテ利
ヲ忘レ生ヲ遺テ、
義ヲ行ヒ死ヲ視ル
一歸スルガ如シ

乳雀ノ檐間ニ棲ムヲ見テ近侍ノ者ニ命ジ之ヲ捕ヘシム

呂氏春秋

其乳雀ノ巢クフ所ノ屋ハ將軍秀忠公ノ寢室ナレバ皆行ク_一ヲ欲セズ衆信綱ヲ推シテ曰ク子幼年ニシテ身體輕キモノナレバ宜シク此任ニアタルベシト信綱辭スルニ忍ビズ命ニ應ジテ夜中竊カニ屋ニ登リ雀兒ヲ捕ントシ誤リテ足ヲ失シ屋上ヨリ墜ツ秀忠公其物音ヲ聞キ怪ミテ刀ヲ提グ庭ヲ見ルニ信綱ナリ公其來ル由ヲ問フ曰ク雀兒ヲ捕ヘント欲シ誤リテ墜ツルナリト公曰クコレ汝ガ心ニ出デタルニアラズ必汝ヲシテ捕ヘシムルモノアルベシト信綱告グルニ實ヲ以テセズ公乃チ信綱ヲ大蒙中ニ内レテ柱ニ懸ケテ曰ク汝實ヲ告ゲザレバ此妻ヨリ

出ス_一ヲ允サズト翌朝公他ニ出ツ夫人其飢ニ及ハン_一ヲ慮リ私ニ食ヲ與ヘケル公歸テ之ヲ語ル_一初ノ如シ信綱遂ニ其辞ヲ改メズ夫人頗リニ請フテ之ヲ放サシム公之ヲ目送シテ曰ク他日我兒ヲ輔翼シ能ク其心ヲ竭スモノハ夫レ信綱ナランカト果シテ公ガ言フ所ノ如クナリ

五ノ氣ハ須ク是剛ナルベシ剛ナラザレバ則義理ヲ擔當スル_一能ハズ_世 範

五生ケルモノ必一タビ死ナズト云フ_一ナシ節義ヲ失ヒテカヒナキ命ヲ生キ縱ヒ百年ノ齡ヲ保チ富貴ヲ極ムトモ入ノ道ヲ失ヒテ世ニ生ケルカヒナクバ何ノ樂カアラシヤ是人ノ勤メ行フベキ大節ナリ 大和俗訓

〔六〕言ハ心ノ聲ナリ心正シキ者ハ言直ク心故ヨルモノハ言誕ナリ心公ナラザルモノハ言理ニ中ラズ心誇大ナル者ハ言實ヲ窮メズ省心雜言

祁奚人ヲ
舉クルニ
親也ヲ論
セザル

〔六〕列國晋ノ祁奚大夫タリ老ヲ請フ晋君問フテ曰ク孰レカ嗣タラシムベキ祁奚對テ曰ク解狐可ナリ君曰ク子ノ讎ニ非スヤ曰ク君可ヲ問フ讎ヲ問フニ非ザルナリ晋君遂ニ解狐ヲ舉グ後又問フ孰

レカ以テ國慰ト為スベキヤ祁奚對テ曰ク午可ナリ君曰ク子ノ子ニ非バヤ對テ曰ク君可ヲ問フ子ヲ問フニ非ラザルナリ君子謂フ祁奚外舉仇讎ヲ避ケズ内舉親戚ヲ回セズ至公ト謂フ可シ

〔六〕斧斲底厲ハ其損ヲ見ザル比時アリテ盡ク種樹畜養ハ其益ヲ見ザル比時アリテ大ナリ徳ヲ積ミ行ヲ重ヌル其善ヲ知ラザル比時アリテ用

〔六〕事ヲ見ルニハ理ノ明ナルヲ貴グ事ヲ處スルニハ心ノ公ナルヲ貴グ理明ナラザレバ則是非ヲ辨別スル一能ハ

ズ
心公ナラザレバ則可否ヲ裁度スル一能ハズ惟理明ニ心公ナレバ則事ニ於テ疑惑スル所ナク

ヒラル義ヲ棄テ、理ニ背ク
其惡ヲ知ラザル氏時アリテ
亡ク救来

シテ其當ヲ得ン

讀書錄

⑥ 行客大道ヲ以テ迂ナリト
ナシ別ニ捷經ヲ尋子テ或ハ泥淖ニ陥リ或ハ荆棘ニ入り
或ハ岐路アリテ從フ所ヲ知ラズ往々大道ニ從フ者ハ反
テ行キテ前キニ在リ是ヲ以テ小功ヲ務ムル者ハ大拙多
ク小利ヲ好ム者ハ大害多シ理ニ順ヒテ直行シ歩々着實
ナルニ如カズ得レバ則勞セズ失フモ亦心ニ於テ愧ヅル
一無シ 類體集

第四 勤儉

① 勤ト儉トハ生ヲ治ムルノ
道ナリ勤メザレバ則入ル
寡ク儉ナラザレバ則妄リニ
賞ユ 朱用純

① 勤ト儉トノ二ツ

ハ家ヲ治ムル要道

ナリ此二ツノ道行

ハルレバ貧窮ニ至

ラズ財用ニ乏シカ

ラズ 家道訓

① 儉ノ一字ニ其益三ツアリ
己ノ分ニ安ンジテ人ニ求ム
ルナシ以テ儉ヲ養フベシ我
身心ノ奉養ヲ減ジ以テ極貧
ノ人ヲ賙ハス以テ徳ヲ養フ
ベシ不足ヲ目前ニ忍ビ有餘
ヲ他日ニ留ム以テ後ヲ福ス
ベシ 人生必讀書

一 西語ニ曰ク金ヲ製スル術ハ善業ヲ治メテ費用ヲ省クニ在リ

二 餘財ナケレバ不慮ノ變ニ應ズルヲ難ク人ノ困窮ヲ救ヒ難シ 榮道訓

三 豫メ後日ノ備ヲナシ用度ヲ節ニシ及ビ善キ規制ヲ立ツル此ノ三者ハ不幸ナル時運ヲ修治スル絶枝ノ工匠ナリ サモール

二 初メ貧シク後富メル人初メノ貧シキ時ヲ忘レズシテ奮ラザレバ永ク其富ヲ保チテ失ハズ初メ卑シク後貴クナリタル人初メノ卑シキ時ヲ忘レズシテ驕ラザレバ永

二 勤メテ家務ヲ理メ衣食ヲ節省シ毎

ク其貴ヲ保チテ失ハズ 家道訓

歳餘リヲ留メ以テ

二 漢ノ文帝嘗テ露臺ヲ作ラント欲ス匪ヲ召シテ之ヲ計ラシムルニ直百金ト云フ帝

日後吉凶ノ大事ニ

曰ク是中人十家ノ産ナリ何ツ臺ヲ以テセント之ヲ停ム

備フベシ 人生必讀書

身ハ弋綿ヲ衣幸スル所ノ慎夫人衣地ニ曳カズ朴ヲ示シテ天下ノ先トナル宮室苑囿車騎服御皆先代ニ増益スル所ナシ崩ズルニ及ビ遺詔シテ陵ヲ治ムルニ皆瓦器ヲ用ヒ山ニ因テ墳ヲ起コサズ

三 節ニ過レバ奢トナリ節ニ及バザレバ吝トナル節ヲ守ルハ中ニカナラ道ナリ 家道訓

漢文帝工
事ヲ止メ
休養スル
事

③其貪饕ニシテ以テ奪ヲ招カンヨリハ儉ニシテ廉ヲ守ルニ若カズ干メ請フテ以テ義ヲ犯サンヨリハ儉ニシテ節ヲ全スルニ若カズ侵シテ以テ仇ヲ聚メンヨリハ儉ニシテ福ヲ養フニ若カズ放肆ニシテ欲ニ徇ハンヨリハ儉ニシテ心ヲ安ンズルニ若カズ白警編

孝兵衛翁
池村ヲ關
ク括

③菊池孝兵衛ハ野州宇都宮ノ商人ナリ資産富饒ニシテ支店ヲ各處ニ置ケリ孝兵衛入トナリ瀟灑ニシテ吟域ヲ設ケズ賓客堂ニ滿テ詩酒談笑毫モ倦色ナシ然レモ自ラ奉スル儉素ニシテ其常用ノ饌具概テ漆器ノ粗糙ナル者

③端正忠實ナル人ハ外ヲ飾ラズ自己ノ用度ヲ儉節スル

タリ嘉永癸丑巳後國家多事ナリ孝兵衛以爲ラク世變測ルベカラズ宜シク田圃ヲ開キ桑麻ヲ植エテ後圃ヲ爲スベシト乃チ下野絹川ノ沿岸ナル岡本桑島ノ兩村荒蕪ノ地ヲ相シ草萊ヲ拔キ溝洫ヲ通シ窮民ヲ移シ糧食及日農具ヲ給シテ開墾セシム業ヲ安政乙卯ニ起シエヲ文久辛酉ニ竣ハル良田二百八十町民家五十四戸人員三百三十七口ヲ得タリ號シテ菊池村ト曰フ孝兵衛又慷慨國ヲ憂ヒ數千金ヲ散ヅテ四方有志ノ士ニ給セリ且ツ天資忠厚ニシテ窮乏ヲ憫ム一飢渴ノ飲食ニ於ケルガ如シ其宇都

勇アリ自己ノ分限ヲ守ルノ勇アリ
西語

宮ニ在ルヤ夜ニ乗ジ僕ヲ率井潛カニ貧戸ヲ窺ヒ金ヲ投
ジテ去ル此ノ如クスル一數ナレト人其誰タルヲ知ラズ
ト云フ

④人ヲ周フヲ樂ム者ハ自ラ奉ムル一必薄シ身ニ奢ル者
ハ惠ミ其親ニ及バズ 善徳録

④夫涸轍ノ魚需ムル所ノ者ハ升斗ノ水ニ過ギザルノミ
富者ニ在テ一帯ノ高會ヲ省ケバ即チ貧人數月ノ饑ヲ濟
フ可シ半臂ノ輕表ヲ分クハ則貧戸數人ノ寒ヲ救フベキ
ナリ 續輯名言

④儉ニシテ施ヲ好ム者ハ眞
ノ險ニシテ施ヲ知ラザルモ
ノハ吝嗇ナリ 童子曰

④君子其財ヲ棄テ
貧窮ヲ救フ者ハ

友山窮民
十万余人
ヲ救助ス
ル話

④寛保壬戌ノ歲關東洪水ア
リテ民其害ヲ受ル者多シ就
中武州入間郡ハ其害最甚シ
ク民家水ニ押シ流サレテ沈
ムモノ數十里ニ亘ル眞貫友
山食物ヲ舟ニ乗セテ僅僕ト
共ニ漕ギ出シ飢エタル者ニ
ハ飲食セシメ病ミタル者ハ
悉ク載セ飯リ之ヲ療養スル
一數百人ニ至ル因テ其父ニ
請テ曰ク大人平生兒ニ誨フルニ節儉カ行ヲ以セラル、
ハ豈今日ノ為メナラズヤ願クハ身代ヲ傾ケテ窮民ヲ救

其財ヲ愛マザルニ
非ズ其財ヲ愛ム
甚シクシテ之ヲ德
義ニ用ヒント欲ス
ルナリ 慎思録

ハント父喜ビテ之ヲ許シケレバ大ニ倉ヲ開キテ米ヲ發シ飢民ニ施ス窮民之ヲ傳ヘ聞キ爭ヒ臻ル門前市ノ如シ友山多ク病ヲ作り奴ノ最恭謙ナル者ヲ擇ビテ之ニ接セシメ戒メテ曰ク飢人固ヨリ貪ナルニ非ズ謹テ輕海スル1勿レト厚ク之ヲ遇スル1一ニ賓客ニ對スルガ如シ壯幼ヲ問ハズシテ人毎ニ米四升ヲ與フ受ル者感謝セザルハナシ

既ニシテ米盡キケレバ人ヲ四方ニ遣ハシテ金ヲ齎ラン米麥大豆蕎麥ヲ買ハシム既ニシテ金又盡キケレバ父ニ請ヒテ田宅ヲ江戸ノ富家ニ典シ其金ヲ以テ食物ヲ求メ之ヲ施シ冬十月ヨリ翌年四月ニ至テ止ミ又惠施ノ及ブ所四十八村終始救フ1十一万六千餘人ナリ後明和年中

ニ武藏相模上野ノ三州荒饑シ姦民相集リ盜ヲナシ富商ヲ劫奪シ民舍ヲ毀壞シ暴亂甚クシク將ニ友山ノ家ニ及バントセシニ一人走り至リテ大ニ其徒ヲ呼テ曰ク是我奥貫翁ノ居ナリ昔寛保ノ水害ニ翁ノ在ルヲ以我祖父母兄弟ノ生存スル1ヲ得ヤシム汝之ヲ知ルカト衆大ニ駭キ相共ニ顧ミテ曰ク我儕庇恩ニ報ズベキナク反テ虐ケベケンヤト門外ニ俯伏シテ去ル其四鄰モ皆之ヲ為ノニ暴亂ヲ免レシトゾ

(五) 財ヲ用ユル道ヲ知ラテ貧窮ナレバ父母ヲ養フニ薄ク人ニ與フベキ物ヲ與ヘズ人ヲ惠ム1ナリ難ク人ノ負ヒ目ヲ反サズ廉耻ノ道行ハレ難ク人ノ惠ヲ受テ報イズ官トナリテモ貪ナレバ貪リ易ク忠義ヲ勤ノ難シ禮義ニ背

キ心術ニ害アル一皆是困窮ヨリ起ル困窮ハ儉約ナラザルヨリ起レリ 家道訓

梅山富貴ニ居テ奈ヲ戒ムル事

五梅山ハ伊勢ノ人ナリ齊藤拙堂ニ學ブ夙ニ才學文章ヲ以テ名アリ其學ニ在ル數年風辰月夕興來レハ則チ友ヲ呼ビ園蔬ヲ摘ミ豆腐ヲ烹テ同ク斟ミ議論ヲ上下ス後チ津藩ノ教官トナル維新ノ始メ徵サレテ史官ニ任ズ其故舊之ヲ聞キ以為ラチ必ズヤ石樓鉄柱婢妾前ニ滿チ賓客

五 大ニ富メル人モ財ヲ用フル道ヲ知ラザレバ後ハ必貧窮ニ苦ム薄祿ノ家モ財ヲ用フルニ道

沓至シテ門前市ヲ為シ復清險ノ舊梅山ニ非ザルマシト

アレバ貧苦ナシ

一日其家ヲ過グレバ則チ門庭蕭然トシテ人跡ヲ絶ス梅

家道訓

山剝啄ノ聲ヲ聞キ驚喜シテ出テ迎ヘ手ヲ把テ堂ニ上ル蘭席筠榻圖書山積ス宛然タル儒士ノ居ナリ其酒ヲ呼ブ小鮮半盂蔬筍滿盤供給淡如タリ乃チ曰ク吾毎ニ退食賓客ヲ謝シ儉素自ラ養フ蓋シ舊ヲ忘レザルノミ是ヲ以テ俸餘積ム所亦以テ殘年ヲ養フニ足ルト是ニ於テ其前日想像ヲ以テ梅山ヲ視ルノ淺キヲ悔イタリト云フ梅山唯家ヲ治ムルノ儉素ノミナラズ公ニ奉ズル亦然リ其太政官ニ在リ官中ノ會計ヲ總ブルヤ冗費ヲ省グキ用度ヲ節

シ竹頭木屑ト雖モ亦徒ラニ用ヒズ同僚其能ク職任ニ勝
ユルヲ稱セリト云フ

六 薄ハ是身ヲ修ムル要領ナリ後生事ヲ省ミカ走テ繁
華ニ入ル如何ゾ長進スルヲ得ンヤ衣冠飲食俱ニ儉樸ヨ

リ來ルノ人ハ以テ徳ニ進ムベシ以テ福ヲ享クベシ
六 衣服ハ身ノ表ナリ人ニ接スレバ先ヅ見ハル、モノナ
リ心ノ好ム所ハ身必之ヲ服

ス故ニ服ノ邪正ヲ觀テ其心
術知ル可シ慎マザル可ケン
六 衣服ハ貪シキ人モ務メテ
潔ヨク垢ヅキ穢レザルヲ用

六 衣服ハ儉素ニ飾
少ク世ノ常ニシテ
鄙シカラザルガ善

フヘシ富メル人モ美麗ヲ好
ミ無用ノ服ヲ多クスベカラ
ズ大和俗訓

六 節儉ヲ固守シタルニ古ヘ
ヨリ高名ナル大家數多アリ
希臘ノ王アレキサンドルハ
衣裳麾下ノ士ト異ナルトナ
シ羅馬ノ「コンシユル」官タル
カト「ト云フ人ハ價一百ヘンスノ衣服ヲ求メズ世界ノ
帝タルヲ」グスチニスハ常ニ衣裳ヲ其妃及ビ女ニ縫ハ
シメタリ且ツ夜具ハ平人ニ均シキ粗品ヲ用ヒタリ當今
埃國ノ祖タル「コドル」帝ハ一日蒸餅肆ニ入テ竈ノ側ヲ

シ又甚ダ質朴ニ過
ギテ穢ラハシク野
鄙ナルモ惡シ、

大和俗訓

諸大家節
儉ヲ固守
セル事

ニ温ヲ取りシガ其家ノ婦帝ノ惡衣ナルヲ見テ微賤ナル者ト見做シ禮ヲモ為ザズ出シ遣リタリ其風俗想フ可シ佛蘭西王「ロイス」第十一世ノ日誌ヲ案ズルニ表衣ヲ綴ルニ三ペンズ沓ヲ修スルニ一ペンズ半ヲ用ヒタルヲ細カニ箕シ書セリ是ノ大家私費ニ於テハ斯ノ如ク節儉ナリ然レモ國家ノ用ニ至テハ未ダ曾テ大金ヲ惜ムナリナカリシトナリ

⑦後ノ事ヲ慮ラガル人ハ當時ノ奉養ニ奢リ酒食ヲ豐ニシ家宅ヲ美ニシ衣服ヲ飾リテ費ヲ惜マズ財盡キヌレバ人ニ借ルルヲ憂ヘス財ヲ借ス人アレバ多ク借ルルヲ好ム借ル財ハ年々利息加ハリ彌々借リテ彌々財盡キ償フベキカナク家ヲ敗ルニ至ル

家道訓

シヤツク
勤儉以テ
著財セシ

⑦二十以内ニ於テ酒ヲ嗜ミ杯ヲ貪レバ志氣昏惰ニシテ一生ノ進歩限リアリ

⑦酒ノ患ヲナスヤ謹厚ノ者ヲシテ荒瀾セシメ莊敬ノ者ヲシテ狂乱セシム貴キモノモ賤ク存スルモノモ亡ブ家ヲ保子國ヲ保ツモノ當ニ其防ギヲ慎ムベシ方孝孺

⑦「シヤツク、レンプキン」ハ英國ノ「ポルトスモース」ニ役セル水夫ナリシガ若キ時酒ヲ

⑦勤ノ反ヲ惰トス
儉ノ反ヲ奢トス酒
能ク人ヲシテ惰ヲ
生ゼシメ又人ヲシ
テ奢ヲ長ゼシム
勤儉以テ家ヲ興ス

小治政の監補
卷之十四
二十七

過飲シテ備銀ヲ之ニ費ヤシ
 果シケレバ貧窮ニシテ妻子
 ハ敝衣ヲ着シ糟糠ニ飽カズ
 家ハ壞敗シ風雨ニ暴露シテ
 内ニ一物ヲ蓄ヘナシ一日酒
 徒ト共ニ酔テ市街ヲ散歩シ
 偶々守節ノ士ノ聚會セル家
 ニ過ギリタリシガ其中ニ温
 順ニシテ威風アル人飲食過度ノ失害ヲ説キ節度ノ功德
 ヲ講セルヲ聞キ酒氣未ダ醒ノガレ氏其言ヲ是ナルヲ理
 會シ斷然酒ヲ止メテ誓ヒ竟ニ名ヲ記シテ彼ノ會社
 ニ加ハ、ランヲ願ヒタリ爾來律義ニ誓ヲ守リ酒店ニ

ベケレバ則情奢以
 テ家ヲ亡スニ足ル
 益酒之が媒ヲ爲ス
 ナリ 言志録

跡ヲ絶チテ專ラ職業ヲ務メ家ヲ修メ妻ヲ憐ミ幼兒ヲ教
 ヘテ小學校ニ入レ且少數ナガラ餘贏ノ金アルニ至レリ
 此餘金ヲ疾病老耄ノ時ノ豫備トシテ預金會社ニ托シ益
 節度勉強シテ稍ク佳境ニ入りタリケル
 然ルニ故ノ酒友妬ミ羨ミ口ヲ極メテ嘲弄セリ是レ如何
 ナル意ゾヤ已レ放蕩ニシテ敝衣ヲ着シ芋ヲ食ヒナガラ
 他入ノ節度ニシテ妻子ニ春服ヲ與ヘ甘美ヲ囓ラシムル
 ヲ語り突フハ拙劣ノ甚シキニ非ズヤ一日「ジャツク」途中
 ニテ舊友ニ遇ヒシガ「ジャツク」ヨ「汝ガ節度ハ汝ガタノニ
 宜シカラズ知ラズヤ面色既ニ黄胖ノ如クナレリ我舊友
 ノ誼ヲ忘レズ忠信之ヲ告グルナリト嘲リケレバ「ジャツ
 ク」懐中ヨリ會社ニ預ケントスル黄金十二ヲ出シテ然リ

汝能ク我ガ懐中ヲ見ヨ節度ハ面色ヨリ懐中ヲ黄ニスルナリト云ヒケレバ彼者大ニ窘メラレ再ヒ謾侮ヲ受ケザリシトナリ

八 西諺ニ曰ク酒ハ内應者ノ如ク先ニ友トナリ後ニ敵トナル又曰ク酒ノ人ヲ溺ラス

ハ大海ヨリモ速ク及ビ難シ

八 酒入レバ舌出ヅ舌出ヅル者ハ言失ス 說苑

九 儉約ヲ主張シテ奢侈ヲ戒ムベシ精勵ヲ主張シテ怠惰ヲ戒ムベシ慈悲ヲ主張シテ

闘争ヲ戒ムベシ 格憲漫筆

八 種々ナル惡習ノ

中飲酒ノ一事最高

大ノ事業ヲ妨グ

スコツト

九 富貴ヲ久シク保テ子孫ニ傳ヘント欲スル人ハ唯謹

慎ヲ守ルベシ此ノ如クナレバ必能ク子孫ニ傳フ貧賤ヲ免レテ敝衣ヲ脱セント欲スル人ハ唯勤儉ヲ守ルベシ此

ノ如クナレバ必能ク敝衣ヲ脱グ者ナリ 額休集

九 儉ニシテ能ク施スハ仁ナリ儉ニシテ求メヲ寡クスルハ義ナリ儉以テ家法トスルハ禮ナリ儉以テ子孫ニ傳フルハ智ナリ 仇文

九 木村成壽ハ茂木縣下竹原村ノ人ナリ學ヲ好ミ博ク書

史ニ通ズ明治某年居テ其宅ノ東ニ移ス其地變埋ニシテ陽ニ面シ下ニ水田數千頃ア

九 家業ハ先祖碑身

ノ功績ト陰徳トノ

餘慶ナリ親能ク守

成壽公傳
ヲ遊ケテ
家計ヲ止
ワル也

り長林之ヲ遠ル人アリ成壽
 ニ謂テ曰ク子ハ林泉ニ嘯傲
 スルノ士ニアラズ且其故宅
 ハ高檐大字ニシテ廣邑ニ在
 リ何ッ彼ヲ去リテ此ニ來ル
 ヤ成壽曰ク僕ガ家ニ田八十
 石アリ稼穡ヲ務メバ利期ス
 ベキナリ本邑ハ東京往來ノ
 官道ニシテ風俗柔惰加之坡錯アリ僕其間ニ居レバ使役
 スル所ノ僮婢皆滯靡ニ習レ敢テ力ヲ田畝ニ竭サズ故ニ
 居テ此ニ遷シ躬自ラ耕耨シ僮僕ヲ淬勵シ彼ヲシテ紛華
 ヲ慕ハシメザレバ倉穀ノ盈或ハ期スベキナリト

り得テ我ニ讓レリ
 我能守リテ子ニ
 讓ルハ孝ナリ

民家童蒙解

成壽ノ父
 德ヲ施シ
 養ヲ子孫
 ニ遺ス事

成壽ノ父信義徳アリ性施與ヲ好ミ粟ヲ御里ノ貧者ニ貸
 シテ其恩ヲ言ハズ赤貧ニシテ償フ能ハザル者ハ亦之ヲ
 責メズ是ヲ以テ家ニ餘財ナク時ニ或ハ入ニ乞假スルニ
 至ル其祖信成亦財ヲ惜マズ御入ノ急ヲ濟ヘリ故ニ世入
 成壽ガ勉勵此ノ如クナルヲ見テ相告テ曰ク其父祖ノ蓄
 フル所徳ニ在テ財ニ在ラズ成壽果シテ豊富ヲ致ス所謂
 陰徳アレバ子孫必興ル者ナリ而シテ成壽能ク其富ヲ致
 シ其家風ヲ墜スナシ是則チ君子富テ其徳ヲ行フ者ニ
 シテ其富長ク保ツベキナリト

第五 教育

アウダス
ナンノ父
英字ヲ教
育スル事

一 親ノ子ヲ慈愛スルニハ道
藝ヲ教ヘテ子ノ才徳ヲ成就
スルヲ本トス當座ノ苦勞ヲ
傷ハリテ子ノ願ノ儘ニ育テ
ヌルヲ姑息ノ愛ト云フ姑息
ノ愛ハ紙特ノ愛トテ牛ノ子
ヲ育ツルニ譬ヘタリ 翁問答
ヨリハ寧ロ生マレザルガヨ
シ

二 アウダスチンノ父某ハタ
カステノ貧人ナリ然レモ能

一 人ノ人タル専ラ
生涯ノ教育ニ因ル
ナリ教育ハ生涯其
身ヲ離レザルモノ
ナリ プラトール
二 人ト爲テハ幼キ

ク其資カヲ盡シテアウダ氏ヲ
學校ニ入レ務メテ其心ニ蓄
養セシム其母モ亦アウダ氏ノ
心志ヲ仁慈ノ域ニ導カン
ヲ務メタリシカバ初メアウ
ダ氏ガ少年ノ片惡行勤ナカラ
ズシテ苦患ヲ受クルト多カ
リシモ遂ニ徳教ニ薰化シテ
有名ナル羅馬教師トナリ人
今日ニ重セラレニ至レリ

三 四民共ニ其子ノ幼キヨリ父兄君長ニ事フル禮儀作法
ヲ教ヘ聖經ヲ讀マシメ仁義ノ道ヲ漸ク喻サシムベシ是

時ヨリ其父兄トナ
ル人ハ其子弟ニ書
ヲ讀マセ道ヲ學バ
シムベシ 初學訓

根本ヲ務ムルナリ次ニ物書キ算數ヲ習ハシムベシ物善ク言ヒ世ニ慣レタル人モ物ヲ書クヲ達者ナラズ文字ヲ知ラザレバ弁クシテ人ニ見落サレ侮リ笑ハルハ口惜シ夫ノミナラズ文字ヲ知ラザレバ世間ノ事ト言葉ニ通ゼズ諸ノ務ニ應ジ難クテ世事ニ滞フル事ノ多シ童子

③文中子曰ク家ヲ御スルニ四ツヲ以テ教ヲ勤儉恭恕ト夫レ勤ムレバ功アリ儉ナレバ用ヲ足シ恭ナレバ侮ラズ恕ナレバ怒ナシ此ノ四ツノ者一ヲ缺ギ得ズ名門右族モ祖先ノ勤儉恭恕ニ因リ以テ之ヲナサルハナク子孫ノ

③家ヲ興スモ子孫ナリ家ヲ敗ルモ子孫ナリ子孫ニ道ヲ

大山伊ノ
嚴訓ニ依
リ立守ル
ル事

怠頑奢傲ニ由リ以テ之ヲ敗ラザルハナシ教訓

④適當有實ノ教師ヲ選ムハ父母ノ任ナリノルセント

④石川丈山少ニシテ豪放不羈ナリ其母乃チ前途ノ成立如何ヲ慮リ教督訓誡毫モ假借セズ丈山年十六ニシテ父ヲ喪ス是ヨリ母教益嚴ナリ既ニシテ徳川家康召シテ麾下ノ士トナシ遂ニ近侍ニ列ス丈山節ヲ折り恭謹其主ニ事フ母悦テ曰ク吾志達セリト大坂ノ役丈山家康ニ從テ京師ニ往キ疫ヲ病ム適其母江戸ヨリ書ヲ遣リテ曰ク汝

教ヘズシテ子孫ノ繁昌ヲ求ムルハ足ナクシテ行ク一ヲ願フニ齊シ翁問 答

ガ家世國恩ヲ蒙レリ若シ是
 役ニ功ナクンバ何ノ面目カ
 再ビ母ヲ見ント辭意最モ懇
 切ナリ文山病方サニ篤シ人
 ラシテ其書ヲ讀マシメ之ヲ
 聞キ流涕シテ言ナシ既ニシ
 テ家康ニ條城ヲ發ス文山乃
 チ疾ヲ與シテ從テ家康望ミ
 見テ驚テ曰ク彼病殆ンド危
 シ何ヲ以テ此ニ至ルヤト夜
 ニ入り召シテ慰勞ス越エテ
 二日文山獨騎奮戰シテ敵首

④ 能ク子弟ヲ教育
 スルハ一家ノ私事
 ニ非ズ是君ニ事フ
 ルノ公事ナリ君ニ
 事フルノ公事ニ非
 ズ是天ニ事フルノ

職分ナリ 言志錄

ヲ獲遂ニ偉功ヲ成セリ
 ④ 子弟ヲ教ルニハ如何ニ愚
 不肖ニシテ若ク卑ク甚シク忿リ罵リテ顔色ト言葉ト
 ヲ暴ラハカニシ惡口シテ辱シム可カラズ斯ノ如クスレ
 バ子弟我が非分ナルヲバ忘レテ父兄ノ戒メヲ怒リ恨
 ミ背キテ從ハズ反テ父子兄弟ノ間モ不和ニナリ相破レ
 テ恩ヲ賊フニ至ル只從容トシテ嚴正ニ教ヘ幾度モ繰リ
 返シ漸ク告ゲ戒ムベシ是子弟ヲ教ヘ人オヲ養ヒ為ス法
 ナリ 童子訓
 ⑤ 父子ノ間ハ小慈ニ溺ル可
 ラズ少キ時ヨリ之ヲ律スル
 ニ嚴ヲ以テシ之ヲ繩スニ禮

⑤ 兒童ヲ教フルニ
 仁愛ヲ以テスレバ

拿破翁ノ
母能ク子
ヲ教訓ス
ル事

ヲ以テスレバ則長ジテ不肖
ナルノ悔イナシ自警編

五 拿破翁ノ母ハ平生慈愛ノ
心深カリシ人ナレトモ拿破翁
幼時過アリテ之ヲ訓誡スル
井ハ恰モ大將ノ士卒ニ臨ム
ガ如ク其威儀莊嚴ナリト雖
モ決シテ怒リ罵シルコトナ
ク其過失ヲ理解シ之ヲ心服
セシメテ而シテ後止メリ拿
破翁成長ノ後毎ニ人ニ語リ
テ曰ク我高尚ノ心志ト忍耐

兒童亦仁愛ノ心
ヲ起スベシ

若シ之ヲ教育スル

ニ冷情無心ナル井

ハ兒童ノ性質モ亦

只斯ノ如クナルノ

ヒツシエル

ノ氣象ハ皆母ノ賜ナリト
五 子弟ハ孝弟忠信ヲ土臺ニ
シテ義理ト耻トヲ專トスルヤウニ育ツベシ孝弟忠信ナ
ラザレバ人道立タズ一身修マラザルナリ義理ト耻トヲ
專ラトセザレバ身持ヲ見苦シク萬事手前勝手ノミ致ス
ナリ林君後

六 我接遇スル人ヲ見ルニ其
教育ニ於テ或ハ善トナリ或
ハ惡トナリ或ハ有用ノ入ト
ナリ或ハ不用ノ入トナル其
十中ノ九皆然リロツク
六 子ヲ教フルハ正ヲ以テス

六 子ヲ養ヘバ必教
フ教フレバ必嚴ニ
ス嚴ナレバ必成ル

ルヨリ貴キハ莫シ愛シテ之ヲ教ヘザルハ之ヲ愛スト云フヲ得ズ教ブルニ正ヲ以テセザル者豈之ヲ教フト謂フトヲ得ンヤ 諸儒ハ學論

六 子弟ヲ養フハ芝蘭ヲ養フガ如クス既ニ學ヲ積ミ以テ之ヲ培ヘバ更ニ善ヲ積ミテ以テ之ヲ潤スベシ 言行錄纂

七 富貴ノ家ニハ善キ人ヲ擇テ早ク其子ニ付クベシ惡シキ人ニ馴レ深ム可ラズ貧家

ノ子モ早ク良友ニ交ハラシメ惡事ニ習ハシムベカラズ

童子訓

孟母猪肉ヲ子ニ與フル話

七 孟軻少キ時其東鄰ノ猪ヲ殺スヲ見テ飯リ其母ニ問フテ曰ク何ニ為サントスルヤ母ノ曰ク以テ汝ニ啖セント欲スルナリト既ニシテ母共失言セシヲ悔テ謂ヘラク吾聞ク古ニ胎教アリ今兒既ニ生レテ適ニ知ルテアリ而シテ之ヲ欺クハ是之ニ不信ヲ

學ベバ則庶人ノ子

モ公卿ト爲ル學バ

ガレバ則公卿ノ子

モ庶人ト爲ル

父子善誘法

七 教へおくる事

だがそびは行末は

道とほふとも

何としままをいし

後撰集

八 父ノ其子ヲ懲戒

スルニ至嚴ノ責罰

教フルナリト乃チ猪肉ヲ買
テ之ニ食ハセタリ

⑦子ニ黄金滿籬ヲ遺スハ一
經ニ如カズ漢書

⑧獵夫ノ銃丸一旦水禽ノ羽
翼ニ觸ルハ片ハ忽水中ニ入

テ其形ヲ見ズ汝若シ兒童ヲ
シテ驚怖ノ心ヲ懷カシムル

中ハ則汝ノ眼中ヲ避クベシ
エチマン

⑨鄧禹ハ身帝ノ師トナリ位
侯王ニ居リ富貴ヲ極メ子十

鄧禹子
各一藝
ヲ執ラシ
ムル事

三人アリ讀書ノ外皆各一藝
ヲ執ラシム蓋子孫ノ身心ヲ

拘束シ其レヲシテ空閑放蕩
ナラシメズ即或ハ爵除カレ

祿去ルノ後子孫亦以テ身ニ
資アリテ饑寒潦倒ニ至テザ

ランメン一ヲ欲シテナリ其
子孫ノ為ニ謀ルヲ深遠ナリ

ト謂フ可シ頤禮集

⑩幼ヨリ惡事ヲ見聞スレバ
先入主トナリ後ニ善事ヲ見

聞スルモ惡習性トナリテ改

ヲ以テスルハ他ノ

懲罰ヲ盡クスノ後

ニアルベシセ子カ

⑨人ノ子アル須ク

業アラシムヘシ貪

賤ニシテ業アレバ

饑寒ニ至ラズ富貴

ニシテ業アレバ非

ヲ爲スニ至ラズ世範

⑩其門ニ入テ誦讀

ノ聲ヲ聞ケバ以テ

其子ノ賢ナルヲ知

マリ難シ 家道訓

⑩賢師友ノ教能ク子弟ヲシテ父兄ニ聽從セシメ賢父兄ノ教能ク子弟ヲシテ師友ヲ敬信セシメバ則子弟必ス賢ナラン 養孤慈

ルベシ紡織ノ聲ヲ

聞ケバ以テ其内ノ

賢ナルヲ知ルベシ

身世準繩

通教

一家ハ親ニ聽キ國ハ君ニ聽ク古今ノ公行ナリ子ハ親ニ反カズ臣ハ主ニ逆ハズ先王ノ通誼ナリ子ノ道ハ順ニシテ拂ラズ臣ノ行ハ讓リテ爭ハズ子ニシテ私道ヲ用

フル者ハ家必乱レ臣ニシテ私義ヲ用フル者ハ國必危
フシ 戰國策

一正以テ心ヲ處シ廉以テ己ヲ律シ忠以テ君ニ事ヘ恭以テ長ニ事ヘ信以テ物ニ接シ寬以テ下ニ接シ敬以テ事ヲ處ス 讀書錄

一學以テ之ヲ治メ思ヒ以テ之ヲ精クシ朋友以テ之ヲ磨キ名譽以テ之ヲ崇フシ倦マズ以テ之ヲ終エ學ヲ好ムト謂フベキノミ 揚子法言

一惠ハ主ノ高行ナリ慈ハ父母ノ高行ナリ忠ハ臣ノ高行ナリ孝ハ子婦ノ高行ナリ主惠ニシテ懈ラザレバ民奉養ス父母慈ニシテ懈ラザレバ爵祿至ル子婦孝ニシテ懈ラザレバ美名附ク 管子

一君子ハ親ニ事ヘテ孝ナリ故ニ忠君ニ移スベシ兄ニ事ヘテ弟ナリ故ニ順長ニ移スベシ家ニ居テ理マル故ニ治官ニ移スベシ 孝經

一善ヲ見テハ之ニ從ヒ義ヲ聞テハ則服シ溫柔孝弟ニシテ驕テカヲ恃ム_一毋レ志ハ虚邪ナル_一毋レ行ヒ必ズ正直ニシ遊居常アリテ必ズ有徳ニ就ケ顔色ハ整齊ニシテ中心必ズ式ミ夙興夜寢衣帶必ズ飭フ朝ニ益シ暮ニ習ヒ小心翼翼タリ此ヲ一ニシテ懈ラズ是ヲ學則ト謂フ 管子

一夫義ノ立タザル名ノ著ハレザルハ士ノ耻ナリ故ニ身ヲ殺シテ以テ其行ヲ遂グ此ニ因テ之ヲ觀レバ卑賤貧窮ハ士ノ耻ニ非ザルナリ夫士ノ耻ヅル所ノ者ハ天下

忠ヲ擧ゲテ焉ニ與カラズ信ヲ擧ゲテ焉ニ與カラズ廉ヲ擧ゲテ焉ニ與カラザルニ在リ三ツノ者身ニ在レバ令名後世ニ傳フ 說苑

120.1

小學修身鑑補

卷十四

星洲

小學修身鑑補卷十四大尾

明治二十年二月八日版權免許

同 年九月 刻成

定價五錢五厘

福岡縣士族

編輯人

吉田利行

福岡縣福岡區福岡濱ノ町二十二番地

同縣平民

出版人

右田喜久郎

同縣同區博多掛町十一番地

22
14
74

小學修身鑑補

卷十四

